

■学校経営のポイント

学校経営の総括と展望

小島 宏

校長の学校経営の総括的評価は、次年度の学校経営を展望する意味において極めて重要なことと認識する必要がある。学校経営の総括的評価の内容と改善策が、次年度の学校運営と教育活動の方向を左右すると言っても過言ではない。

学校経営の評価

学校経営案は校長の個人的な思いを表現したのではなく、リーダーとしての充実した学校運営と教育活動の方略を文章化したものである。学校経営案に基づき校長自身が評価する。

また、副校長・教頭、主幹教諭や必置主任に自由記述で「よくできたこと」「課題の指摘とできれば改善案」「新規に取り入れたほうがよいこと」などを具体的に評価させる。

他の教職員については学校評価の自己評価の結果を活用する。また、保護者や地域については、学校評価で用いたアンケート調査の結果や学校関係者評価及び第三者評価の結果を活用する。

そして、以上を基にして、評価結果と改善策を簡潔にまとめ、整理し文章化する。

学校経営の次年度の展望

学校経営の評価結果とこれに基づいた次年度の学校経営の概要を明文化し、全教職員に配布し、校長としての次年度の学校運営と教育活動の展望を説明し、周知徹底する。

これは、学校経営の総括的評価が単なる評価を超えて、次年度の学校運営や教育活動を方向付ける戦略的な意味をもたせたいからである。

教育課程編成の方向を示す

まず、学校経営の「総括的評価の結果と次年度の展望」を踏まえて、教務部（教務主任）に次年度の教育課程編成（案）を作成するよう指示する。当然、学校評価の結果を生かして教育課程の編成をするわけであるが、その際、校長は次年度の重点事項や方向性を示し、それを考慮して考えさせ、具体的な改善が行われるよう指示することが重要である。

全体計画や指導計画の改善の視点

次に、学校の道德教育や学校における体育・健康に関する指導、人権教育、生徒指導などの全体計画の改善、各教科や道德、特別活動、総合的な学習の時間などの年間指導計画、生徒指導や安全教育など実施計画の改善を進める。その際も、学校経営の評価結果と校長の次年度の学校運営や教育活動の展望を反映させるよう各担当者に指導・指示する。

このことにより次年度の各種計画の作成がマンネリ化し、前年踏襲になる傾向にあった状況を、「目標と内容と方法の確認」「よい点を継続する」「課題は原因を明確にして改善する」「不足していることや必要なことは新しく取り入れる」などの具体的な視点を踏まえて、方向性をもった前向きな改善行動に変えることができるであろう。

校務分掌の改善への方向付け

校長や副校長・教頭、先輩・同僚教師から学んだことも整理して自覚させたい。これは自分の教師としての成長のためである。後輩教師を指導・支援する際にも役立つ。他の教師から謙虚に学び取ることができる教師には、将来性がある。

次年度の研修課題を設定させる

忙しいと嘆きながらいっこうに改善されないのが校務分掌の内容と組織である。学校評価結果と改善策及び学校経営の総括的評価の結果を反映させ、主幹教諭を中心に整理・統合する案を作成するよう指示する。まず、大まかな案を作り、校長や副校長・教頭と調整をする。その上で、大きな分掌ごとに整理・統合案を作成させる。次に、これを基にして、全体の整理・統合案の作成をし、調整して、具体的なものに仕上げていく。事務室、主事室なども参加させ、学校全体として動きやすいものにしていくことが大切である。年度末の仕事が錯綜しているときだけに、無理はせず、できるところから実施していくという発想が必要である。

（こじま・ひろし＝一般財団法人教育調査研究所研究部長）

●校長のために編まれた“読んで書き込む”スケジュール帳！

『校長 仕事ノート』

【監修】小島宏 【企画制作】教育開発研究所 A5判・260頁／定価（本体2,200円）＋税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、無料FAX 0120-462-488をご利用ください（24時間受付・即日発送）